

## H23 年度 レフリー講習会まとめ

- ◆実施月日:平成 23 年 4 月 17 日(日)09:30~16:00
- ◆実施場所:鶴見緑地球技場
- ◆参加人数:荒谷・島野・杉江・辻野・東・桃木(敬省略)
- ◆講師:原田氏(日本協会A級レフリー)  
青野氏(関西協会B級レフリー 箕面ラグビースクール)、  
米村氏(関西協会B級レフリー 豊中ラグビースクール)
- ◆実施概要:講義 レフリーの視点  
実技 レフリーの服装、時計、笛の強弱・長短  
キックオフから始まって試合の中での注意点  
スクラム、ラインアウト、タックル、ラック、モール、レフリーシグナル  
イメージトレーニング(ポイントで笛を吹き走る)  
6年生のゲームでのレフリング(11分×2本)

### ◆主な内容(順不同)

#### <講義(原田氏)>

・レフリーに求められているのは正しい判定であり、それにより安全を確保する。

・正しい判定

#### ① 立位置(どこで見るか)

a ボール・プレーヤー・判定との距離に気をつける

近すぎる ⇒ 視野が狭くなり密集でオフサイドが見えなくなる。

遠すぎる ⇒ 密集でのプレーを確認できない。

b 方向

見る方向によって判定が変わってしまう・

例>プレーヤーの前から見ているとスローフォワードが見えない。

ボールラインをキープする。ボールの後追いはしない

例>フランカーの動きではなく。

BKが前に出たらその場で前に。そこから横に動くイメージ

c スペースの確保

プレーヤーの邪魔をしない。スクラム・ラック・モールなど

例>いわゆるニュートラルポジションは避ける。

#### ② 焦点(なにを)

通常B級レベルになると試合の動きによってルールを整理する。

タックルエリアにてボールが出ない場合

タックラー ⇒ ロールアウェー(離す行為から始まる)

ボールキャリアー ⇒ リリース

アライビングプレーヤー ⇒ リリース

の順に確認。一遍に起こるので上から順に義務を履行しているかで反則をとる。

プリベンショナルコールによって反則を未然に防ぐことも必要。

#### モール

形成（どの時点でモールが始まったか？）

参加（正しく最後尾から入っているか？）

モールは攻撃の2人・守備の一人以上にて形成

形成中はバインディングもしくは引き込まれていること

例＞両手を上げて中央を進みボールに絡むのはOK

モールの端で上記を行うのはNG⇒引き込まれていない

#### ラック

ラックは地上のボールの上で一人ずつが組み合う。

ゲートの意識

### ③ 理解(どう)

ルールを正確に理解する。特にモール・ラック

試合の流れについての理解

⇒ 今のラグビー規則の適応

例＞ ダブルタックル時のアライビングプレイヤーの絡み

昔はナイスプレー。ジャッカル

今はホールディング

・レフリーは品格を見られている

正しいスタイル・態度・笛 ⇒ 大阪協会はだからスタイルを重視する。

ピッチ上では 厳格にふるまう。

ピッチ外では 周りの関係者(選手・コーチ)の話をよく聞いて対応する。

#### <レフリー試験について>

- ・C級試験と同じ日に行う可能性もあり、6月上旬(C級は5日)
- ・試験は上のルールのみでミニは出ない。50問出題でC級は80点が合格ライン
- ・C級と同時受験で合格の場合のみミニの学科は免除。

#### <服装について>

- ・ジャージ・短パンとも白を準備すること。
- ・短パンはポケット付が必須。ポケットにはスコアカードの他に止血用のハンカチ・予備の笛を持っておく事が望ましい。を必ず入れておくこと。
- ・笛はしっかりした音が出るものを準備。(Acme社推奨)

#### <ルールブック>

- ・ジュニアとミニしか吹かなくても、必ずフルラグビーの競技規則を熟読すること。
- ・フルラグビーのルールがあって、ジュニアとミニ用のルールがあるので、フルラグビーのルールを覚えないと笛は吹けない。

#### <レフリーシグナル>

- ・自信を持って大きい動作で行うこと。自信なさそうにやると見ている人の不信感を招く。
- ・ノックオンも顔の前で「ちゃうちやう」と小さくやるのではレフリーの後ろの人には見えない
- ・手を頭の上に上げて大きく腕を振ること

- ・ペナルティーの場合、動作の順序は、①笛を吹く→②ペナルティーのシグナル→③ボール獲得側を指す→④反則の内容のシグナル
- クイックリスタートを妨げない為。

### <笛の強弱>

- ・ペナルティやトライはしっかり長く吹く
- ・トライの場合、トライしそうな人を追いかけるように吹くのではなく、インゴールに回りこんで、トライした人と向かい合うようにして吹く。レフリーは予測してしっかり走らなければならない。インゴールでは、反則等、何が起こるか分からない。トライした人へおめでとうの気持ちを込めて吹いてあげる(ご褒美)
- ・ノックオンやスローフォワード等の反則は短くしっかり吹く
- ・笛もシグナルと同様に堂々と吹かないと見ている人の不信感を招く。

### <ポジショニング>

- ・相撲で言う行司の位置にずっと立たないように。
- ・スクラムでボールが投入されたら、攻撃側へ少し下がりスローフォワードや防御側のラインオフサイドのチェックを行う。
- ・レフリーはボールラインをキープしながら動く。
- ・局面ごとに頭の中でチェックしなければならない事項をイメージしてポジショニングする必要があり、準備ができていないと、とっさの反則等に対応ができなくなってしまう。

### <局面でのレフリーとしての注意点(実技)>

(昨年の内容と類似しているため追加・重複点は赤字にて記載)

#### ◇キックオフ

- ・プレーヤーの人数の確認(前半・後半の最初)
- ・正しい位置から蹴っているか(ハーフウェイより後方)
- ・キッカー側のプレーヤーはキッカーより後方に居たか
- ・キッカーより前に出て見る事はしない。
- ・ボールが5mラインに到達したか(相手が拾えばプレーオン)  
達しない場合はオプションなしのセンタースクラム
- ・レフリーはまずは真っ直ぐ前に出るその後、接点に向かって横に動き近づく。

#### ◇スクラムでのかけ声

- ・セット→フッカーのオーバーバインド
- ・クラウチ→見合って腰を落として組み合う準備の体勢
- ・タッチ→相手をつかむ
- ・ポーズ(ホールド)→相手をつかんだまま静止
- ・エンゲージ→頭が腰より低くならないように真っすぐ組ませる
- ※それぞれの動作を、ゆっくり、しっかり時間をかけてやらせる

※スクラムはノンコンテストだが体重をかけあうようにしきつく組ませる。

(プロップがスクラム解消後すぐにHB陣へすぐにチャージする行為は危険であるため)

- ・スクラムに参加しない選手はスクラム後方の足の位置から3m後方に下がっているか
- ・ハーフがボールに触れたらスクラム終了(高学年)
- ・ハーフがパスアウトした時点でスクラム終了(中学年)

- ・ボールを投入しない側のSHのオフサイド位置はスクラムに手が届く位置であり  
それ以上離れる場合は3m以上下がっていること

#### ◇ラインアウト

- ・タッチになったら短く笛を鳴らす
  - ・ポイントを示す(正しい位置か)
  - ・双方2人のプレーヤーがタッチラインより3～8mの間に並ぶ
    - ・ラインアウトに参加していないプレーヤーはラインオブタッチより5m後方に下がる  
(ラインオブタッチとはタッチになったポイント)
  - ・双方しっかり間を空ける  
(日本協会の競技規則には1mと明記されているが 50 cm程度あればOK)
  - ・スローワーは3m以上真つすぐ投げる  
(中学年はノーコンテスト・ハーフのパスでラインアウトは解消)  
(高学年はコンテスト有)
- ※レフリーの立ち位置はスローワーとボールを投入する側の前列に並んでいる  
選手との間より少し後方が理想的

#### ◇タックル

- ・相手をしっかりバインドせず振り回すプレー
  - ・肩より上、顔・頭へ手や肩を当てるプレー
  - ・相手を突き倒したりタッチの外に突き出すプレー(スマザーはOK)
  - ・リアットのように打ち付けるプレー
- ※アドバンテージを取らず、即座に笛を吹くこと

#### ◇ラック

- ・タックルは成立したのか
  - ・タックラーは離れること(ロールアウェイ)
  - ・ボールキャリアーはボールを離すこと(リリース)
  - ・ゲートが発生する(オブザゲート)
  - ・立ってプレーすること(オーバーザトップ)
  - ・ラックの中にあるボールを拾い上げない(ピックアップ)
- ※ラックでボールが最後尾まで来ていないのにボールを拾い上げるプレーが多い

#### ◇モール

- ・フィールドオブプレーのみで発生
- ・頭や肩を低くしてはならない
- ・バインドされていない
- ・モールの上に跳びかかってはいけない
- ・最後尾の選手は後ろから参加すること
- ・ボールが出た振りをしてはならない(フリーキック)
- ・ボールが出るかインゴールに入るとモール終了
- ・前進が止まり、停止するとモール終了

#### ◇キック

- ・正しい位置でおこなわれているか(10～12m以内)

- ・キッカー側のプレイヤーのオフサイド位置の確認
- ・キッカーへのレイトチャージはないか
  - ※キック後すぐにボールを目で追うレフリーが多いが、ボールはアシスタントレフリーにまかせて上記ポイントを確認後ボールを追うようにする。
- ・ゴールライン付近でのスクラムではキャリーバックが発生していることが多いので特にチャージが発生したときにどちらが持ち込んだかを確認しておく。
  - キック側がインゴール内の場合は相手の5mスクラム
  - キック側がインゴールから持ち出している場合はキック側の10m以内でのドロップ